

平成31年度 勝浦町教育基本方針案

勝浦町教育委員会

【教育基本方針】

㊦ 一人ひとりを大切にする教育の充実、教育環境の充実、伝統文化の継承 ㊦

学校教育においては、「人づくりがまちづくりの基本」をコンセプトに、次世代を担う子どもたちに確かな学力、体力、郷土を愛する豊かな心を育成するため、指導体制の充実、郷土資源の活用、家庭・学校・地域の連携強化を図り、教育環境の向上を目指す。

生涯学習においては、文化やスポーツなどの活動人口が減少していることから、一人ひとりの活動意欲を高める学習環境の向上、伝統文化の継承、スポーツや文化における世代間交流の活性化を目指す。

【基本方針に基づく施策】

(1)学校教育の充実

①特色ある学校教育の充実

- ・学習指導要領に基づく教育の実施
- ・個に応じた指導の実施
- ・読書活動の充実
- ・国・県学力調査の活用
- ・外国語教育の推進
- ・情報教育の充実
- ・心の教育・人権教育の充実
- ・安全・食育・主権者等教育の推進ほか

②地域との連携の充実

- ・家庭・学校・地域の連携・協力
- ・地域人材・資源の活用
- ・家庭学習の推進
- ・虐待等の未然防止に向けた家庭・保護者への支援

③教育環境の向上

- ・教職員の資質・指導力向上
- ・小・中学校の連携強化
- ・施設整備の充実
- ・高校進学への支援

(2)生涯学習の推進

①学習・文化・スポーツ活動の活性化

- ・総合型地域スポーツクラブの運営支援
- ・活動組織の活性化
- ・施設の機能向上と利用促進
- ・郷土文化の継承ほか

②人権教育の推進

- ・人権教育推進協議会の運営
- ・相談支援の実施ほか

③青少年健全育成の推進

- ・地区活動の充実
- ・補導パトロールの実施
- ・青少年健全育成センター及び専門補導員との連携ほか

【平成31年度の重要事項】

(1)学校教育ICT設備の整備業務（かつうら創生総合戦略関連）

今の子どもたちが社会人となる時代は、全てがインターネットにつながるIoT社会が到来する。次期学習指導要領に、不可欠な条件整備の一つに「ICT環境の整備」が挙げられている。さらに、「全ての学習の基盤となる力」として、「言語能力(読解力等)」の次に「情報活用能力(プログラミング的思考やICTを活用する力を含む)」が挙げられている。このような情報化社会に対応可能な人材育成に取り組むため、ICT環境の整備に努める。

(2)阿南市方面への通学用交通手段の確保（かつうら創生総合戦略関連）

徳島県立高等学校普通科の通学区域内でありながら、公共交通機関の空白区域である阿南市方面に通学する生徒の交通手段としては、保護者会がタクシーを利用して実施しており、保護者会に対し補助金の支出で支援する。

(3)外国語指導助手(ALT)のサポート体制強化(勝浦町総合計画後期基本計画関連)

小学校では令和2年度、中学校では令和3年度から全面実施される次期学習指導要領の柱として、小学校では「外国語活動の学習開始学年引き下げ及び5・6年生での英語教科化」、中学校では「原則、英語の授業は英語で行う」と記されている。

児童生徒の英語力向上と、教師の語学力・指導力向上を狙いとして、平成29年度から外国語指導助手(ALT)を小・中に1人ずつ2名体制に増員し、さらなる外国語教育の強化・推進を図っていく。

(4)学習環境の充実

生比奈小学校においては、電話設備の更新、ガラス等飛散防止対策事業を実施する。横瀬小学校においては、北側の駐車場拡張整備を進める。

(5)全国学力・学習状況調査並びに徳島県学力ステップアップテストの活用

学力調査の結果分析を行い、子どもたちの学力のより一層向上策に活用する。

- ・全国学力・学習状況調査(文部科学省)は年一回、小学6年生を対象に国語・算数、中学3年生を対象に国語・数学で実施される。
- ・徳島県学力ステップアップテスト(徳島県教育委員会)は年2回、小学4・5年生(2回目は6年生を追加)を対象に国語・算数・質問紙、中学1・2年生を対象に国語・数学・質問紙で実施される。

(6)学校教育の充実

障害のある子ども一人ひとりの教育的ニーズを把握し、適切な支援を行うため、特別支援教育支援員を配置するなどの体制整備を充実する。

長寿命化計画の策定を進め、施設の長寿命化推進し、修理費用等の平準化を図る。

(7)働き方改革

国の働き方改革の方針を受け、平成30年度から中学校において部活動指導員を配置するとともに、留守番電話の導入を検討し、教職員のストレスチェックを実施する。

また、教職員の長時間勤務の実態が明らかになる中、多忙化解消のため、県下統一した「学校業務支援システム」を平成32年度までに導入する。

(8)恐竜化石を核としたまちづくり

平成6年のイグアノドン類、平成28年・30年のティタノサウルス形類などの草食恐竜の化石のほか、30年の調査においては獣脚類肉食恐竜の骨の化石が地層の中から見つかり、いわゆるボーンベッド（恐竜化石含有層）も認められたと徳島県立博物館が発表した。

福井県立博物館によると、将来的に勝浦ザウルスと認定される恐竜の発見も期待され、郷土資料展示室での常設展示を始め今後のまちづくりの素材として活かしていく。